

富山市定例市長記者会見（令和4年3月1日）

■冒頭

市長

皆さん、こんにちは。本日は定例記者会見ということで、お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。早速始めてまいります。

■路面電車南北接続2周年記念イベント「つながる Weekend」 について

市長

「市民100年の夢」であった路面電車の南北接続が実現してから、今月21日で、2周年の節目を迎えます。

市民の皆様は、南北接続による利便性の向上や、賑わい創出などの効果を改めて実感していただくため、路面電車南北接続2周年記念イベント「つながる Weekend」と題して、3月18日（金）から21日（春分の日）にかけて、富山駅周辺や大手モール、岩瀬地区や富山大学、南富山駅周辺などの路面電車沿線の計15会場で、24の多彩なイベントを一体的に開催いたします。

このイベントは、今年度、富山駅の周辺企業や交通事業者、本市などで設置した「富山駅南北一体的なまちづくりプラットフォーム」が主催者となって、富山県や富山大学をはじめ、多くのまちづくり団体などのご協力を得て、開催するものであります。

まず、3月18日（金）午前11時から、路面電車南北接続2周年記念と、「つながる Weekend」の「オープニングセレモニー」を富山駅の南北自由通路にて開催します。

このセレモニーでは、富山商業高校の書道部に「つながる」という文字で、書道パフォーマンスを披露いただきます。

各会場のイベント概要については、お配りしてあるリーフレットにありますとおり、富山駅南口では、「飛騨市や沖縄県の物産展」をはじめ、「カタレ富山のパブリック・ビューイング」、富山駅北口では「よぞら駅道」や「えきのあそびば」、大手モールでは「トランジットモール」、岩瀬地区では、「南北直通2周年イベント in 岩瀬」などが開催されます。

また、これらのイベントを路面電車や徒歩で、さらに楽しんでいただくための仕掛けとして、「とほ活ポイント」が取得できる「とほ活ラリー」を開催いたします。

まず、本日からの1カ月間、資料に記載の4つの電停を巡る「マンスリーラリー」を行います。

イベント期間中の18日から21日までは、各会場の最寄りの9つの電停を巡る「つながる Weekend ラリー」を開催いたします。各会場では「つながる Weekend イベントポイント」も取得していただけます。

なお、各イベントは、新型コロナウイルス感染症対策を徹底して開催することとしておりますが、感染の状況や天候などにより、中止や内容を変更する場合がございます。その場合は、市ホームページや、とほ活ツイッターなどで最新の情報を発信しますので、ご確認いただければと思います。

この「つながる Weekend」を通して、路面電車の南と北、街と人、人と人といった様々な「つながり」による新たな価値の創出や、外出機会の増加による賑わい効果などを、より多くの市民の皆さんに実感していただき、都市全体の活力向上につなげていきたいと考えております。

■ 報告事項

市長

次に、新型コロナウイルス感染症に関する状況について、ご報告させていただきます。

本市の新型コロナウイルス感染症の感染状況については、未だ第6波の渦中にあり、全国的にはピークは越えたという報道もありますが、市内については感染者の最多人数を更新する日が続くなど、収束の兆しはまだ見えていないと認識しています。

2月中の感染者数については、2月28日公表分までで、5,399人となり、月間の感染者数としては、過去最多となりました。

このオミクロン株の影響を受けた第6波の特徴としては、家庭内での感染や、集団生活を行う学校や施設でのクラスターが増えております。市民の皆様には、引き続き、マスクの着用や手洗い、換気など、基本的な感染予防対策をよろしくお願い申し上げます。

また、2月の定例記者会見でもお伝えしましたが、保健所における積極的疫学調査を、患者の重症化防止に力点を置き、重点化し、実施しておりますが、感染者数の多さから、保健所業務が逼迫して、その負担が大きいという状況は変わっておりません。

このため、担当部局である福祉保健部以外の他部局からの応援体制を2月から整えて、鋭意対応しているところです。

3月も引き続き、全庁を挙げて、新型コロナウイルス感染症への対応を行ってまいります。

次に、新型コロナウイルスワクチンの接種についてのご報告です。

本市でのワクチン接種状況につきましては、お手元の資料のとおりであります。3回目となる追加接種を受けられた方は、2月28日現在で、73,049人、全人口に対する接種率は17.6%となっており、このうち、65歳以上の高齢者は55,649人、率にして45.1%となっております。

2月中は、高齢者を中心に、接種間隔を前倒して追加接種を進めてきたところであり、医療機関のご協力により、接種スピードは加速しています。

また、64歳以下の方につきましては、2月下旬からは、2回目接種から
の間隔が最短6か月で追加接種が可能となるよう、接種券の発送を順次前
倒しており、3月上旬以降は、2回目接種から6か月が経過する日までに、
皆様のお手元に接種券が届くようになります。

私にも接種券が届きましたので、昨日、保健所の集団接種でモデルナ社
製ワクチンの接種を受けたところであります。

今のところ、腕の痛みは少しありますが、通常と変わらない体調であり
ますので、「ファイザー、ファイザー、モデルナ」という交互接種でした
が、体調に異変が起きたということはありません。

こうした、初回接種と異なるワクチンを接種する、いわゆる「交互接種」
ですが、昨日保健所へ行きましたが、スピード感を持って追加接種を受け
たいという方がおられまして、モデルナ社製のワクチン接種を受けられる
方も結構いらっしゃるわけであります。

初回接種でファイザー社製ワクチンを接種された方が、追加接種をモデ
ルナとした場合は、より抗体価の上昇率が高くなるという報告もあります。

市民の皆さんには、ワクチンの種類よりも、スピードを重視し、早めの
接種をお願いしたいと思います。

次に、妊娠中の方の追加接種についてですが、妊娠中の方は感染した際
の重症化リスクが高いとされています。

このため、初回接種時と同様、市内の産婦人科医院のご協力をいただき、
3月以降、個別接種、集団接種の双方に、優先的に予約できる接種枠を準
備することといたしました。

同居家族やパートナーの方も対象といたしますので、是非ご利用いただ
きたいと思っております。

また、5歳から11歳までの小児へのワクチン接種につきましては、3月
7日（月）からの開始をご案内したところでありますが、昨日、対象とな
る約23,000人に対して、接種券を発送いたしました。一部報道にあった
とおりであります。

明後日の3月3日（木）までは、基礎疾患をお持ちのお子さんの優先予
約期間とし、4日（金）からは、9歳から11歳のお子さんの予約を開始い
たします。

学校や保育所などでクラスターが多く発生しております。

保護者の皆さんには、お子さんとよく話をなさって、接種を検討していただきたいと思います。

最後に、定例記者会見は、これまで、毎月初日に、月 1 回開催してきたところですが、市長就任以来、本市の事業推進の状況を見ている中で、新型コロナウイルス感染症の影響があるということを差し引いても、非常にたくさんの情報発信をしなければならないという局面に出くわしております。

要は、月初の 1 日だけで情報発信するのではボリュームが大きすぎて、そうかと言ってそのタイミングを逃すと、1 か月後には陳腐化してしまう情報も結構あります。

ですから、原則は月の初めでありますが、中日の 15 日も（会見を）開催して、（議会開催月等を除いて）月に 2 回の開催として、本市の情報発信力を高めていくということを新年度からやっていきます。

市民の皆さんに、よりきめ細かく、より丁寧な情報をお伝えすることができるのではないかと考えています。

詳しい開催日程は、随時、広報課から市政記者の皆さんにお知らせいたします。

私からは以上であります。

■ 質疑応答

記者

富山駅前の新たなランドマーク「MAROOT」が今月 18 日にグランドオープンします。駅周辺はもちろんのこと、中心市街地の活性化等、どのような効果を期待されるのか、お聞かせください。

市長

今月 18 日、富山駅南口に JR 西日本不動産開発グループが整備を進めておりました商業施設「MAROOT」と、宿泊施設「ホテルヴィスキオ富山 by GRANVIA」からなる複合ビルが、いよいよオープンいたします。

この複合ビルが位置する富山駅南西街区は、敷地の一部を本市が所有しており、本市の富山駅周辺地区土地区画整理事業によって、土地利用の増進と高度化を積極的に推進した街区であります。

この場所に、県都富山の玄関口として相応しい商業・宿泊機能を備えた新たな拠点が誕生することで、来街者に「富山の駅前素晴らしいな」という思いをきっと抱いていただけるのではないかと考えております。

また、MAROOTには、テナントとして、いろいろなショップが入るということで、県内産の魚介類を提供するお店や、非常にレベルの高い県産牛等を扱う県内企業、その場でお酒の醸造をするお店が入ったりということで、地域の活性化につながっていくことを確信しているわけであります。

また、富山駅北口駅前広場が、この3月末に完成いたします。

富山駅の拠点性がさらに高まり、官民が連携して取り組む「南北一体的なまちづくり」が一層加速していく中で、次のステージのまちづくりがいよいよ始まっていくということを感じております。

記者

新型コロナについて、市内の感染状況に収束の兆しが見えてこない中、市として、どのような原因で感染が広がっていると考えておられるのか、また、今後どのような対策が必要だと考えておられるのか、お聞かせください。

市長

感染源としては、保育園や幼稚園、小・中学校、児童福祉施設等でクラスターが多く発生していること、あるいは、クラスターには至らなくても感染者数が多いという中で、そこで感染されたお子さんがご家庭へ帰られて、家族の方が感染するという状況が続いていると認識しています。

それは保健所の調査や感染者の日毎の数字を見ていけば、11歳以下が非常に多くて、その父母にあたる30歳代、40歳代の方々の感染が多いということ、それで感染する場所を見ると、学校や家庭が多いわけです。我々としてはそのように分析しています。

対策としては、適宜、個別のケースに対して、学級や学年を閉鎖したり、必要があれば学校や幼稚園、保育園等の全体を閉鎖したりしています。

その期間も3日から5日まで、土・日曜日を挟む場合がそうありますが、それによって期間の長短—（その施設で）最初、あるいは最後に発症された方等によって、いろいろなケースがありますが、その時点から数えて、この日までということで、保健所あるいは担当部局から指示を出すということになっております。

そうした分析はきちりとしておりますので、詳しくは福祉保健部等に問い合わせただければと思います。

=====

記者

市長記者会見について、今後、原則として1日と15日の月2回開催されるということですが、今まではどういう面で情報発信が足りなかったと感じておられるのか、また、これは新型コロナ関連のことも受けて、月2回の開催にしたほうがいいのか、ご判断なのか、お聞かせください。

市長

まさにそれが一番の理由ですね。新型コロナウイルス感染症は、特に昨年8月のデルタ株のときに、ものすごいスピードで（感染が拡がり）、まん延防止等重点措置が適用されました。

今、その時のことを思い返してみると、情報発信はもちろんしていたのですが、やはり行き届かなかったという声を結構聞くわけですね。

記者会見や広報誌への掲載、ホームページへの掲載やSNS等、いろいろな媒体を通して、適宜情報を発信しているわけですがそれでも届かないという方々が相当数いらっしゃったというのが実感です。

「何を情報発信しているのか。全然聞こえてこないぞ。いつから（ワクチンを）打てるのか。いつまで待てばいいのか。」といった声であります。

ですから、そういうことを少しでもなくしていくように、情報提供の機会を増やすということです。

もちろん担当課は一生懸命やっているのですよ。やってもそれが届かないと意味がないですから、少しでも届く機会が多くなるように（記者会見の）回数を増やしたいという思いであります。

記者

本日の発表項目についてですが、路面電車の南北が接続してすぐに、コロナ禍に重なり、ずっと大変な時期が続いていると思うのですが、今回のイベントに懸ける思い、どういう思いでこのイベントに臨まれるのか、お聞かせください。

市長

昨日、(本会議で)提案理由の説明をさせていただきましたが、富山駅の周辺整備については、北陸新幹線の開業と路面電車の南北接続、そして昨年の都市計画道路「富山駅南北線」の供用開始等も含めて、今日は「ホテル JAL シティ富山」の開業披露式典に出席してきましたし、この後の「MAROOT」のオープン等、賑わいが着実に出てきていると思います。

富山駅の北側についても、ブルバール広場の整備が進んでいますし、昨日は親水広場―市総合体育館と「とやま自遊館」の間にある広場ですね、一これをもっと使い勝手が良くなるように整備していこうということも(本会議で)説明させていただきました。今後ますます、こうした南北一体的な(まちづくりへの)動きが進んでいくのではないかと考えています。

そこで、これまで何度も申し上げていますが、大事なことは、そこ(駅周辺)で会社に勤めている方々や居住しておられる方々、飲食店を営んでおられる方々やここを訪れる方々が、みんなでそこに滞留して、(駅周辺)エリアの賑わいを作っていくということです。遅滞することなく、確実に進めていきたいと思っています。

=====

記者

ワクチン追加接種の状況についてお伺いします。65歳以上の高齢者の方の接種率が約45%、全体の接種率が約17%ということですが、この状況について、想定どおり、スムーズに進んでいると認識しておられるのか、現状についての思いをお聞かせください。

市長

追加接種については、昨年末から始めて、昨日で2月が終わったところ

ですから、順調に来ていると思います。

ただ当初は、モデルナ社製のワクチンということで足踏みをされた方がいらっしやいましたので、その分だけペースとしては、待つことなく予約できるという状況になっていると思います。

1,2 回目のワクチン接種のときは、いつ予約ができるのかという問合せが非常に多かったのですが、今回はほほいい感じで接種枠が埋まりながら、余裕を持って進んでいる状況になっていますので、市民の皆さんには、落ち着いて、しかしスピード感を持って接種をしていただければと思います。

記者

市内では、小・中学校や保育園等で多くのクラスターが発生している状況ですが、エッセンシャルワーカー、保育士や教職員の方々への追加接種についての現状をお聞かせください。

市長

(そうした方々への) 優先接種枠は設けております。詳細な現状については、担当課にお問い合わせいただければと思います。

=====

記者

保健所の業務逼迫について、去る2月から応援体制を組まれて、積極的疫学調査も重点化しているというご説明でしたが、現時点でも状況は逼迫しているように受け取れるのですが、その辺りはどのようにお考えでしょうか。

市長

現場は逼迫していると感じております。

昨日、現場視察も兼ねて、ワクチン追加接種で（保健所に）行ってきましたけれども、（職員たちは）相変わらず、忙しく業務をしていましたし、去る日曜日にも田畑総務副大臣が視察に来られるということで、私も随行させていただき、保健所長や現場のスタッフから「やはり大変だ」ということを聞いています。

何が大変かという、陽性者の特定もそうですけれども、濃厚接触者の特定や、その方が発熱に至るまでに、どういう経過で生活しておられたかという調査がなかなか追いつかないということなのですね。

その辺りも含めて、今は他部署からの応援も含めて、何とか（業務を）切り回しているというところです。

訪問診療に関しては、富山大学の山城先生のお力も変わらずお借りしていて、山城先生におかれては、日曜日でも積極的に保健所に来ていただいたり、自宅療養の患者さんのところを回られたりと、いろいろなアドバイスや情報提供もいただいておりますので、大変ありがたいと感じております。

記者

この3月も引き続き、職員の応援体制を組んでいかれるということでしたが、応援職員の数を増やすことは考えられていますか。

市長

今は全庁的に、1年の中でも特に多忙な期間に入っていて、現在、各部署から2人前後の応援体制（1日合計7名程度）を組んでいるわけですが、この形は続けたいと思っています。基本的には、その出来る範囲の中でやっていきたいと考えています。

ただ、あまり考えたくはありませんが、これ以上、（業務が）逼迫するような状況になれば、さらに増員する場面も出てくるかもしれません。

=====

記者

保健所の業務逼迫の件に関連して、今後、県との業務連携や、県から（職員の）応援をもらえるように市から要請するという考えは持っておられますか。

市長

県には、集団接種会場を確保してくださいということを、早くからリクエストさせていただいて、富山空港等々の集団接種会場を設定していただ

いています。前回よりも広い範囲で、県の東部地区全部を網羅するという形ですけれども、相当助かっています。

保健所そのものの体制については、今のところ、富山市でしっかりとやっっていこうということで、全庁を挙げて取り組んでいるところであります。

あとは最初のデルタ株（流行）のときも含めて、老人介護施設等で県から医療スタッフを派遣していただき、エッセンシャルワーカーや入所者の方に接種をしていただいたというのは非常に助かったわけであります。

追加接種についても、できればそうしていただけませんかというリクエストはしておりますので、応えていただける範囲で、対応していただいていると認識しております。

記者

本日、報告のありました記者会見の回数増について、県の新田知事は、基本的に毎週、会見をしておられると思うのですが、そういったことも参考にされたということはあるのでしょうか。

市長

そのことも参考にはさせていただきました。首長の発信力はすごいなということは正直感じております。

加えて、本市も盛んに取り組んではおりますが、県は YouTube や SNS 等で新しい取組みを結構しておられて、再生回数を見ても、ある程度伸びていますよね。

本市も「とほ活」や農林水産物、ガラス関係など、いろいろな場面で、SNS 等での情報発信をしていますし、この取組も結構長いので定着感はありますけれども、さらに一工夫必要なのかなとは感じています。

あらゆる場面で、あらゆるツールを使って、工夫しながら発信していくということが大事なことではないかと思っています。

記者

市長ご自身も今後はツイッターへの投稿や YouTube への出演等で、ご自身の言葉を発信していくということは考えておられますか。

市長

そこが一番問題ですね。私も Facebook はある程度更新していたのですが、最近は休みがちですし、SNS のいい部分をしっかり見て、発信はしていきたいなと考えています。

自分の SNS があまり更新できなかったという 1 年間の反省も含めて、今後、記者会見は（議会開催月等を除いて）月に 2 回開きたいということです。

※発言内容を一部整理して掲載しています。・・・富山市広報課